

企画展 がお・すがた・こころ—肖像と近代—

安田毅彦《大観先生像》1950年 東京国立近代美術館蔵
—企画展「がお・すがた・こころ—肖像と近代—」より—

- いしかわゆかりの肖像【近現代絵画・彫刻】
- 雪舟の《花鳥図屏風》と加賀藩の美術工芸
【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 加賀藩における狩野派の絵師たち【古美術】
- 工芸と暮らす【近現代工芸】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】
 - 第77回現代美術展
 - 〔展覧会回顧〕企画展「花木にみる 日本美の心」
 - バスツアー 参加者募集
 - 4月の行事予定

企画展(第7~9展示室)

かお・すがた・こころ—肖像と近代—

主催／石川県立美術館

後援／北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、北陸朝日放送

出品協力／東京国立近代美術館

4月18日(日)~5月23日(日) 会期中無休

昨春、コロナ禍により中止となった「かお・すがた・こころ—石川ゆかりの肖像—」。守備範囲を「石川ゆかり」から「近代日本」へと広げ、近代日本美術を語るに足る作品を結集。「かお・すがた・こころ—肖像と近代—」と題してよみがえりました。

肖像とは、ある人の顔貌、容姿を写した作品を指すのが一般ですが、本展では歴史・伝説上の人物から信仰の対象まで、肖像を広く解釈しました。そうして設けた4つのカテゴリーから、近代という時代が求めた人物像、人物から導き出される時代性を展観できる展覧会へと拡充しました。是非ご覧ください。

第I章 芸術を極める

師や影響を受けた人物、また己の信ずる芸術を希求する芸術家の姿は、表現者達の心を強く揺さぶるものでした。

安田靉彦《大観先生像》(日本画)東京国立近代美術館、

下村観山《天心岡倉先生(草稿)》(日本画)東京藝術大学 他

第II章 歴史に求める人間の姿

戦後、個人主義的な風潮から、歴史物語を題材とする作品は、ほとんど作られなくなりましたが、近代は歴史物語に理想を求め、作家も国家・社会からの要請に応えていった時代です。

菊池契月《小楠公弟兄》(日本画)京都市美術館、

川端龍子《越後(山本五十六元帥)》(日本画)大田区立龍子記念館 他

第III章 市井の人間像

ここに紹介するのは、顕彰のためでも社会からの要請でもなく、作家の純粹な創作意欲の発露として制作された作品です。

高光一也《立秋》(油彩画)東京国立近代美術館、

朝倉文夫《墓守》(彫塑)東京国立近代美術館 他

第IV章 親しき人を見つめる眼

対象と対峙する芸術家のきびしい眼差しも、親しき人の前では一時解放され、思わぬ傑作を生み出しました。

宮本三郎《妻と私と》(油彩画)東京国立近代美術館、

小倉遊亀《姉妹》(日本画)滋賀県立美術館 他

◆観覧料

一般…一〇〇〇円(八〇〇円)
大学生…八〇〇円(六〇〇円)

高校生以下…無料

※()内は65歳以上、及び20名以上の団体料金。

◆関連行事

講演会「西洋絵画 近代洋画に見る肖像画、人物画」

日時…4月18日(日)午後2時~3時30分

講師…廣田生馬氏

(神戸市立小磯記念美術館学芸係長)

会場…当館ホール

申込不要、聴講無料

土曜講座 午後1時30分~

5月15日(土) 歴史画と近代

前多武志(担当課長)

22日(土) 近代日本の野外彫刻

竹内 唯(学芸主任)

会場…美術館講義室

申込不要、聴講無料

みどころガイド

担当学芸員による、展覧会をより楽しむためのスライドを使ったガイダンスです。

日時…毎週日曜日(4月18日を除く)

午後1時30分より(30分間)

会場…美術館講義室

◆関連の特集展示「いしかわゆかりの肖像」を、2階第4展示室で開催しています。

宮本三郎《妻と私と》
1963年 東京国立近代美術館蔵

上村松園《夏の美人図》
大正初期 水野美術館蔵

平櫛田中《鶴筆試作(岡倉天心像)》
1942年 東京藝術大学蔵

いしかわゆかりの肖像

4月18日(日)~5月23日(日) 会期中無休

企画展「かおすがた：こころ―肖像と近代―」にあわせ2階コレクション展示では、石川県ゆかりの肖像作品を紹介いたします。

当館では数は左程ではないものの、充実した日本画の肖像作品をご覧いただけます。中でも稲元実は、自らの家族を主題に描き続けた日本画家でした。今回展示する《父子》は、思春期前の長女をそっと抱き寄せる、父の思いが伝わる作品です。その他にも坂根克介《帽子の女》、中村徹《二人》などを展示します。

油彩分野では、家族を描いた有岡一郎《家族》、西田伸一《刻・遠いみち》、親しい人々を描いた中村研一《安宅弥吉像》、八野田博《老人》、また知り合いの画家をモデルにした遠田運雄《憩う》、松本昇《N氏の午後》のほか、鴨居玲《1982年 私》、伊東哲《自画像》、木下晋《自画像》などの個性的な自画像表現もご鑑賞ください。

彫刻分野では、金沢市生まれの吉田三郎の作品が見どころとなります。晩年、知人の肖像を楽しんで制作した作品群のひとつである《金山平三像》、石川ゆかりの人物をモニュメンタルに制作した《青木外吉像》や《高峰讓吉像》、肖像の残っていない人物を想像して制作した《友禅像》などを展示いたします。

素描・版画分野から宮本三郎の木版画《舞妓十二題》を展示いたします。宮本三郎の描いた素描淡彩画の原画を、その当時の木版画界最高レベルの彫師と摺師を選し仕上げた作品です。季節ごとの行事の装いや、何気ないしぐさの可憐な姿など、日本の美の結晶と京舞妓に魅せられ、描き続けた宮本の舞妓の作品群をご覧ください。

企画展とあわせ、バラエティ豊かな人のかおすがた：こころをお楽しみください。



吉田三郎 《辻永像》

学芸員の眼

「理想と肖似」という観点から、少々お話を。「肖像」を字義でとらえると「肖」は「似せる」、「像」は「かたちすがた」の意があり、「肖像」は、特定の人物に似せたとの意味合いもあります。ですから本展には、本人によく似せた作品も登場します。たとえば「岡倉天心」。岡倉は日本の文化遺産を守るとともに、近代美術の発展を担った巨人でもあります。その特異な面貌は、岡倉の強い意志と独創性を見る者に想起させ、本人への「肖似」性はこの場合は必須です。

一方、時に肖像作品は「肖似」性だけでなく、「理想」化も重視されてきました。川端龍子《越後(山本五十六元帥)》は、言わずと知れた海軍軍人山本五十六。制作時は戦死しており、元帥は追贈でした。従来の日本画に比べ、写実的で堂々と描かれた大画面は、なんと縦二五〇cm。身長一六〇cmあまりの山本を見事に理想化しています。

川端龍子《越後(山本五十六元帥)》
1943年 大田区立龍子記念館蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館 雪舟の《花鳥図屏風》と 加賀藩の美術工芸

4月18日(日)~5月23日(日) 会期中無休

前田育徳会展示室では、前田家が所蔵する代表的作品で、古くから「雪舟真筆に近い作品」と伝えられる《四季花鳥図屏風》をはじめ、加賀藩ゆかりの絵画工芸作品を紹介します。

昭和二(一九二七)年、本作品について美術雑誌『國華』誌上で紹介したのが、大正から昭和初期の東京帝国大学教授で美術史家の瀧精一(一八七三~一九四五)です。「雪舟の最も長ずる所のは山水であることは言う迄もないが、又その道釈人物と花鳥に於いても見るべきものがある」と触れ、中でも「最も優れて標準となすに足るものを求むるならば、我等は前田侯爵所蔵の六曲一雙四季花鳥図を推すことを躊躇しない」と述べています。

極端に屈曲する樹木の中に花鳥を描き込んだ《四

季花鳥図屏風》は、中国明代の画院画家呂紀りよきの花鳥画に影響を受けたと考えられ、豊かな装飾性と優れた描写力を兼ね備えています。「行年七十一雪舟筆」の署名は、後の時代に記されたと思われませんが、瀧の紹介のあった昭和二年以降も、雑誌の雪舟特集や雪舟の展覧会においては欠かせない作品です。

本特集では、その他第2展示室で開催中の「加賀藩における狩野派の絵師たち」にあわせ、狩野探幽《龍虎図》、探幽と子探雪の合作で五幅対《漢五傑像》、梅田九栄《鷹狩図絵巻》より夏の景も紹介します。清水九兵衛《真鳥羽入箆筒》や二代五十嵐道甫《黒塗布目引出絵替絵具箆筒》など、加賀時絵の作品とあわせてご鑑賞ください。

古美術(第2展示室) 加賀藩における 狩野派の絵師たち

4月18日(日)~5月23日(日) 会期中無休

第2展示室では特集展示「加賀藩における狩野派の絵師たち」を開催します。

江戸時代、將軍家や大名家に絵師として仕えたのが狩野派です。狩野派は室町幕府八代將軍足利義政の御用を勤めた狩野正信を祖とし、元信・松栄・永徳と、時の権力者の需要に応じた剛健かつ華麗な絵画様式を確立しました。江戸時代に入ると各大名家も狩野派の絵師を採用したため、狩野派は全国に広がるのです。

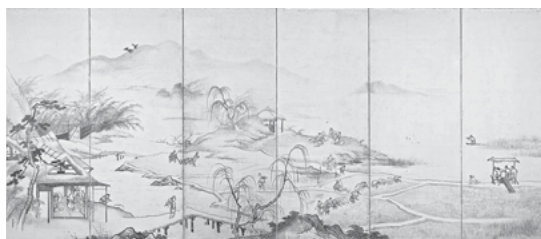
加賀藩で活躍した狩野派の絵師としては、狩野探幽門下の四天王のひとりでありながら、のちに加賀へ下った久隅守景(生没年不詳)がまず挙げられます。守景は、中国に画題の由来をもつ「四季耕作図」を得意としましたが、今回は唐様(中国の風俗)で描かれた石川県指定文化財の《四季耕作図屏風》を紹介し

ます。

出自には諸説ありますが、狩野友益(生没年不詳)は、京都より江戸に出て活躍した後、加賀藩五代藩主前田綱紀に招かれ加賀へ下った絵師です。残された作品は少ない中、中国の故事を画題とした《帰去来図 剡溪訪戴図屏風》を展示します。

友益の子が伯圓(一六四二~一七二六)で、綱紀の時代に江戸屋敷の駒込邸の能舞台鏡板や本郷邸障壁画制作などに携わりました。代表作《唐獅子図屏風》からは、伯圓の豪快さがうかがえます。

幕末に加賀国にて活躍したのが、佐々木泉景(一七三三~一八四七)です。京都で狩野派に学んだ後、大聖寺に戻り藩の御用を勤めました。本特集では、大聖寺藩主の菩提寺である実性院に伝わる《群鹿図屏風》を公開します。



石川県指定文化財《四季耕作図屏風》(左隻) 久隅守景

重要文化財《四季花鳥図屏風》(右隻) 伝雪舟

優品選

4月18日(日)~5月23日(日) 会期中無休

冬の厳しい寒さからようやく解放され、展示室でも春到来の喜びを感じる作品、そして、企画展にちなんだ人物がテーマの作品をご紹介します。

日本画分野から「かお・すがた・こころ」展や「いしかわゆかりの肖像」の展示にちなみ、ガラスケース内に歴史物語に題材を採った紺谷光俊《染殿の井》や、女性の凛とした佇まいに息をのむ小林古径《琴》など人物画を多く展示します。その他、春先に相応しい優品の数々をお楽しみください。

油彩分野では、春の季節にちなみ、京都嵐山の春の情景を明快な色彩と力強い筆触で描いた小糸源太郎《春闌》や、金沢の犀川の春を穏やかな色調で捉えた堀忠義《犀川春静》、宇宙や地球の超現実的な空間表現を見せる棚瀬修次《Black Space in ーかたちー》、田浦隆透《風景38》などを展示します。



堀忠義《犀川春静》

工芸と暮らす

4月18日(日)~5月23日(日) 会期中無休

工芸は、陶磁、漆、染織、金工、木竹、人形、ガラスなどの分野があり、それぞれの材質独自の制作工程を経て、日常生活で使う道具として作られています。そのため、皿、碗、箱、籠など、用途(食べる、書く、しまう等)に応じたかたちをしています。

ところで、現代の工芸は、大きく次の三つに分類できるでしょう。一つは、使う器のかたちをしています。が、作品単体でも鑑賞を楽しむことができる「鑑賞を主とする工芸」。二つめは、自由な造形(動物や人、抽象的なモチーフ)でありながら、制作工程のルールに則りつくられた「造形的な工芸」。最後は、具体的な「用途に即した工芸」です。

本特集では、飾皿のような大皿、花瓶や人形などの「鑑賞を主とする工芸」と、食事の時に料理を盛る器、箱や棚の収納具のほか、着物や茶道具などの「用途に

即した工芸」を紹介します。

ここで食器の富本憲吉《染付藤文向付》を紹介しましょう。富本は東京移住後、生活のなかに安価で芸術性の高いやきものを提供することを志向し、そのための量産方法を考えていました。その一環として、地方の窯業地へ出向き、富本が見本を作り、現地の陶工に同じものを作らせる方法と、既製素地に絵付けをする方法で量産化を目指しました。本作は一九三〇年に長崎県波佐見町で絵付されたものです。波佐見は江戸時代より陶磁器生産地の一つで、「くらわんか碗」という丈夫で廉価な染付碗が江戸時代後半人気を博します。

生活に根ざした工芸の数々。あなたはどれを使ってみたいですか？



富本憲吉《染付藤文向付》

素描では、15歳からベルリン国立美術学校で学んだ脇田和の人体デッサンをご紹介します。線を重視した厳格な人体デッサンから、人物や鳥にデフォルメが伴っても安定感を感じる、脇田作品の魅力を知ることができるでしょう。

彫刻分野からは長谷川八十《踊る女》を紹介しましょう。長谷川は昭和十年東京美術学校を卒業後二紀会で活躍し、戦後の混乱の中、いち早く現在の金沢美術工芸大学の創立に力を注ぎました。本作は高さ二メートルを超える大型の石彫作品です。タイトルをふまえて見ると、踊る人体の動きや軌跡が感じられるようで、見る方向によって印象が変わる見ごたえのある作品となっています。ぜひ、展示室でじっくりご覧いただきたいと思います。

第7～9展示室

第77回現代美術展 一日本画・工芸・書一

3月27日(土)～4月13日(火) 会期中無休

昭和20年10月に第一回展が開催された現代美術展は、本年77回展を迎えます。その間、文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめ、多くの実力作家を生み出し、その成果は「美術王国石川」として大きく花開いております。

本展では、所属会派を超えて、日本画・洋画・彫刻・工芸・写真の6部門から、石川県美術文化協会会員らの秀作に、一般公募からの入賞・入選者の意欲作を一堂に展示します。

◆部門

日本画(第3・4展示室)

工芸(第5・6展示室)

書(第7・8・9展示室)

※金沢21世紀美術館では、洋画・彫刻・写真が展示されます。

◆観覧料(金沢21世紀美術館と共通)

	一般	大高生	中小生
当日	一、〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
前売り	九〇〇円	五〇〇円	四〇〇円
団体	八〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は会員証の提示で団体料金

展覧会回顧

企画展「花木にみる 日本美の心」

当初予定していた展覧会が昨年来のコロナ禍の影響で、延期・中止・縮小が相次ぎました。そうした状況の中で、ほぼ当初の予定どおり開催できたのがこの「花木にみる日本美の心」展でした。

私たち日本人は、はつきりした四季の変化のもと、自然に対してきわめて協調的であり、また自然と共生して生活しているなか、豊かな文化を築き上げてきました。その一端を示したのがこの展覧会といえましょう。

今回の展示の中では、真宗大谷派金沢別院が所蔵する《盛上菊図》(石川県指定文化財)に鑑賞者から感嘆の声が寄せられました。画面いっぱいには菊が描かれており、とくに大輪の菊花は胡粉を厚く盛り上げて、こぼれんばかりに花びらを表現しています。そこに多くの注目が集まりました。盛り上げた胡粉の厚みを保護するため、屏風の一扇ずつが枠に収められたような形態で、そのことにも驚きがあったようです。

新春ということも考慮して、草花を題材とした友禅の訪問着を9点、展示しました。さまざまな制限の中で、暗く沈みがちな気分を一新したいという願いを込め華やかな雰囲気を感じていただけたのではないのでしょうか。

今後一刻も早くコロナが収束し、従来のような展示ができることを願っています。

(会期…令和3年

1月4日(月)～

2月7日(日))



県文《盛上菊図》
真宗大谷派金沢別院蔵(部分)

【参加者募集】

令和3年度 友の会第19回バスツアー 白山の霊場を巡る

期 日／令和3年5月30日(日)
集合時間／午前7時15分

発 着／金沢駅西口団体バス乗り場

参加代金／友の会会員 七五〇〇円

会員以外 八〇〇〇円

募集定員／40名 最小催行人数／30名

※最小催行人数に満たなかった場合は中止といたします。

また、人数を満たした場合でも、今後の状況によりましては中止とすることがあります。ご了承ください。

◆見学地

【白山平泉寺歴史探遊館まほろば】

学芸員の方より解説を聞き、映像を見ることで、白山平泉寺の歴史、自然についての理解を深めます。

【白山平泉寺】

養老元年、泰澄によって開かれた平泉寺。青苔が広がる境内に心を癒し、歴史に思いをはせながら散策します。

※道中、急な階段を含む少し長い距離を歩きます。お気を付けてください。

【はたや記念館 ゆめおーれ勝山】

羽二重の製造工程や、実際に機械が動く様子を解説と共に見学します。中堅機業場として操業していた建物も見ごたえ抜群です。

※建物内、急な階段があります。お気を付けてください。

【林西寺】

かつて白山禅定道にあった貴重な仏像が「白山下山仏」として安置されています。解説を聞きながら拝観します。

【白山本宮、加賀一ノ宮、白山比咩神社】

白山神社の総本宮、白山比咩神社を参拝します。また、神職の方より白山信仰に関するお話を伺い、宝物館の貴重な資料を観覧します。

【能美ふるさとミュージアム】

昨秋オープンしたばかりの新スポット。能美の歴史・自然・民俗、そして「白山曼荼羅」について知見を深めましょう。

◆申込み方法

往信はがきに下記の事項を記入し、ご応募ください。応募者多数の場合は抽選になります。

- ① 往信はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号(ある方のみ)をお書きください。
- ② 返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書きください。消えるボールペンは使用しないでください。
- ③ 返信はがきの裏面には何も書かないでください。

◆応募先

〒920-0963 金沢市出羽町2-1

石川県立美術館バスツアー係

応募締切／4月16日(金)必着

※応募者一名につき、往信はがき一通でご応募ください。

ペアでお申し込みの方、お一人ずつはがきを投函し、その上で「〇〇さんとペア申込」とお書き添えください。

※感染症の状況により、バスツアーの中止、見学地の変更および減少となる場合がございます。あらかじめご理解のほどよろしくお願いいたします。

※急な階段や歩きにくい道、坂道などが行程に含まれます。足腰に不安のある方はお気をつけてください。

※持病などをお持ちの方は、体調と相談の上お申込みください(当日、医療従事者は同行しません)。

4月の行事予定

18日(日)	「西洋絵画 近代洋画に見る肖像画、人物画」 講師：廣田生馬氏(神戸市立小磯記念美術館学芸係長)	14時～15時30分	美術館ホール	無料
25日(日)	「作家シリーズ 創作の原点6 魂の自画像 ゴッホ／シーレ」(30分) 「生活に生きている日本の美術文化」(22分)	14時30分～15時30分	美術館ホール	無料
29日(木祝)	キッズプログラム鑑賞講座「バラバラがお絵本」 対象：小学生親子20名・当日先着 内容：企画展「かお・すがた・こころ」を鑑賞した後、いろんな顔を作れるバラバラ絵本を作ってみよう。	10時～11時	企画展示室・美術館講義室	無料(保護者は2人目より要観覧料)

《色絵象人物図角皿》吉田屋窯 いろえぞうじんぶつすかくざら よしだやがま 幅25.4×奥行25.6×高5.5(cm)



吉田屋窯の活動期間は一八二四年から三十一年までの、わずか七年間でしたが、九谷焼の歴史はこの吉田屋窯の存在を抜きに語る事ができません。古九谷の廃絶後、一八〇七年に京都の名工・青木木米を招いて春日山窯が開かれます。この時、助工として同行したのが肥前出身の本多貞吉でした。貞吉は木米が京都に帰った後も加賀にとどまり、粟生屋源右衛門や、本多清兵衛（貞吉養子）などの多くの陶工を育て、再興九谷の発展に貢献しました。

そして、大聖寺の豪商で家柄町人でもあった四代目 豊田伝右衛門（屋号吉田屋）が、古九谷再興への熱意を持っていた源右衛門と清兵衛の構想に深く共感し、私財を投入して九谷村の九谷古窯の脇に吉田屋窯を開窯しました。吉田屋窯は開窯二年後に山代に移りますが、伝右衛門が博学多趣味の文化人であったことから、古九谷のように一貫して高い芸術性を追求し、各地から招かれた名工が制作にあたりました。

象に騎乗する人物を描いた本作も、吉田屋窯の名品として広く知られています。象は普賢菩薩の座として、平安時代以降の仏画に登場しますが、中国では貢ぎ物をもたらす吉祥図としても描かれてきました。本作もその系統と考えられますが、象の表現は粉本類そのままを写したのではなく、絶妙に合成されています。背景は緑にして氷裂文をあしらひ、吉田屋窯独特の重厚な黄色で描かれた象を際立たせ、縁には芭蕉文を配して見事な額皿（額鉢）に仕上げられています。

第2展示室特集「古九谷・再興九谷名品選」で展示中です。

次回の展覧会

令和3年5月29日(土)
～7月4日(日)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室
前田家歴代藩主の 甲冑・陣羽織と 加賀象嵌鏡	琳派コレクション I 一宗達・宗雪・ 光琳・乾山一	
第3展示室	第5展示室	第4・6展示室
光の印象・光の表現 【近現代絵画・彫刻】	初夏の優品選 —夏が来る— 【近現代工芸】	優品選 【近現代絵画・彫刻】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
4月5日は第1月曜日より
コレクション展示室無料の日

4月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

4月の休館日は
14日(水)～17日(土)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第450号(毎月発行)
2021年4月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。